

2015年12月7日

マントル対流が変化してしまったと言うことを先日来書いているが、これの傍証と思われる事件が続いている。アメリカ、カリフォルニア州のサンタクラリタというところを通る道路が数時間で見てる間に隆起、あるいは陥没したと言う事件が起きている。これもマントル対流が変化したためこの対流に乗っている陸地、すなわちアメリカ大陸に歪が蓄積し、地面が耐え切れなくなり歪緩和のため変形したと思われる。こうした類の地殻の隆起。陥没はここ数年、世界のあちこちに起こっている。恐らく大陸移動が始まったのではないだろうか？これからもマントル対流の変化した地域の地殻変動が多発すると思われる。日本列島も東側に移動していると言われており、これが巨大地震の引き金となりそう。多分火山活動もこの一環で、マントル対流が変化し始めてから、地磁気の磁極が動き始めてから100年以上経過していると思われ、各大陸にストレスが蓄積されてきていると思われ、世界各地でこの地殻変動に伴う事件がさらに多発すると思われる。世界の気象異常も多発しているが、これらもこのマントル対流の変化が原因で海水温の異常高温がすすんでいるためと思われ、決してCO₂による地球温暖化のためではない。COP21等でいつまでもCO₂削減策など議論している場合ではないと思う。もっと現状を把握して無駄な削減策などやめたほうが良く、逆に寒冷化対策に注力すべきで、寒冷化に伴う気象異常の影響のほうがはるかに深刻な食料不足等の問題に陥りやすいと思われる。これまで述べたように磁極の移動がなぜ起こったのかを調査することが先決と思う。すでに100年前から起こっていると言われており、私の言うようにマントル対流が変化したとなると今後の地球環境にとって大きな問題と考える。